

自治会からのお知らせ

出口町自治会

自治会長 江口博保

当自治会には防災リーダーが十四名います。内訳は男性十名、女性四名です。

また年齢的には六十歳以上が十名、六十歳以下が四名です。心強いのは女性四名の内六十歳以下が三名です。先日行われた松浪地区防災訓練の際にも本部要員として六名を狩り出されましたので残り八名で一時退避所を守り安否確認の集計から防災部長への連絡。松浪小学校への避難についても出口町の出発から解散までを細かく担当を決めてスムーズに訓練を完遂する事が出来ました。

一年に3~4回「防災リーダー連絡会」を開催し防災に関する打ち合わせを行っています。防災リーダーなくして出口町の防災対策は進まないと思っております。

当自治会も高齢化が進んでおり自治会として高齢者に対してどう取り組んで行くかが大きな課題です。当面「災害時要援護者」について防災リーダーへは十分周知はしている積もりですが実際の発災時にどう対応すべきかはまだ十分だと思えません。

今後「防災リーダー連絡会」に民生委員にも参加して貰い具体的な施策について議論を進めていきます。

富士見町自治会

自治会長 有川勝治

富士見町の地理的な特徴の一つに、鉄砲道で南北に分断されているということがあります。このため、災害時の避難所が道路を境に分断され、自主防災組織として活動する上で、かなりの制約を受けます。鉄砲道が貫通したことによって、一時期、自治会の班が分断され、同じ班内でも避難所が異なるということもありました。ただし、個人的にはこの鉄砲道は富士見町内で標高が最低でも約7m以上(サークルK付近では10m以上)あり、道路幅も広いことから、津波の防御や防火帯として、また、緊急車両の通行等の役に立つのではないかと期待もしていますが…。

富士見町自治会の年齢構成の特徴の一つは、お元な高齢者の方が、大勢いらっしゃるということです。自治会では、敬老のお祝いをするために、毎年お祝いに該当する方の人数を調査していますが、平成26年の調査では、お祝い対象者(76歳以上)は170名でした。

昨年までは、75歳以上の方が対象者でしたが、対象者の方からも75歳では若過ぎるというご意見が多数あったため、今年から1歳繰り上げました。以後1歳ずつ繰り上げ、4年後には、80歳以上がお祝いの対象になります。その時には、それでも若すぎるとご意見が出るかも知れませんが…。

民生委員・児童委員は、社会福祉協議会の評議員として、高齢福祉部、障害福祉部、児童福祉部の三部会に所属して、地域の皆様に少しでもお役に立てればと思っています。

お困りの事、心配事がありましたら、お気軽にお声をかけて下さい。

私達、民生委員・児童委員は、地域の「見守り隊」です。
(橋本)

松浪地区老人クラブ連合会

松浪地区老連は、11単位クラブから成立し、茅ヶ崎市老人クラブ連合会の傘下にあります。

古い単位クラブは、約50年前に設立されており年齢は、おおむね60歳前後より入会出来ます。

旅行、食事会、スポーツレクリエーション、総会、新年会忘年会、健康教室、地区大会、演芸大会、地域社会への奉仕活動等行っております。松浪地区も高齢者が多くなっております。

「いろんな人と出会えてあなたの人生が楽しくなります。」
自治会、地域団体のご指導ご協力の下で運営しております。
(佐々木)

地域団体からのお知らせ

松浪地区民生委員児童委員協議会

松浪地区民生委員・児童委員は27名、主任児童委員2名です。

区域担当の民生委員・児童委員は、相談者の立場にたって耳を傾け、相談内容によって地域包括支援センターさざなみ、行政への橋渡しをしています。

主任児童委員は、赤ちゃん訪問、子ども達に関する事で、児童相談所、家庭児童相談室、小学校、中学校の先生方と連携して活動を行っています。

日頃の、民生委員・自走委員の活動は、高齢者、特に一人暮らしの方や、日中お一人の方をお訪ねしたり、見守りしています。

障害者の方へは、災害がおきた時私達にできる事は何か? 模索中です。子ども達は主任児童委員と連携して見守っています。

又、各自治会の方針のもと、小学生の登下校時の交通安全対策に協力しています。

松浪地区 まちぢから協議会 スケジュール

3月	1日(日)	まつなみ朝市(8:00 ~ マインマート駐車場にて)
	15日(日)	まつなみ朝市(8:00 ~ マインマート駐車場にて)
4月	1日(水)	松浪コミュニティセンター オープン

まつなみだより



平成27年2月15日 発行(第3号)
発行:松浪地区まちぢから協議会
印刷:仲手川印刷



松浪コミュニティセンター 4月1日にオープン!

常盤町県営住宅茅ヶ崎テラス跡地に、地域の交流やふれあい、地域の様々な団体の活動の場として、松浪コミセンが新たにオープンします。本施設では、自治会活動やサークル活動等、地域の様々な交流・活動の場所として、ご利用いただけます。



■開館時間■ 9時~21時(7月~9月は21時30分まで)

■休館日■ 月曜日(月曜日が休日の場合はその翌日以降の平日) 年末年始

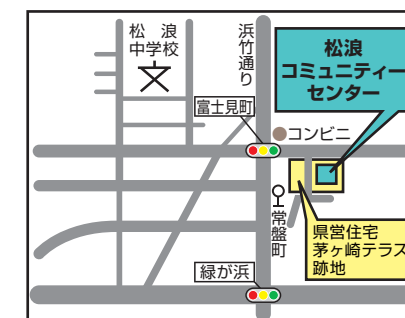
■住所■ 常盤町2番2号

■ホール、会議室、調理室、和室、音楽室の利用方法■

団体登録申し込み(初回限り)をした上で、予約申し込みをしてください。各部屋の予約は3月より始まりませんが、先行して2月2日より団体登録の受付を随時行っています。

3月中の、団体登録申し込み・予約申し込みは、市役所市民自治推進課で受け付けます。4月1日以降は、松浪コミュニティセンターで受け付けます。

※市役所での受付時間(3月のみ):月~金曜日(土曜、日曜、祝日を除く)10時~17時
※コミュニティセンターでの受付時間(4月以降):火~日(休館日を除く)10時~17時



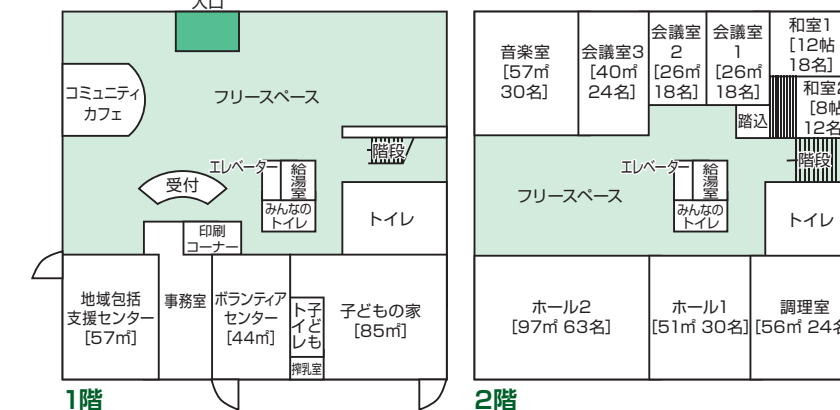
■団体登録の方法■

窓口で配付している団体登録申込書に必要な事項を記入の上、直接持参し、お申し込みください。

■予約申し込みの方法■

各部屋の予約は、利用日の1ヶ月前から3日前まで申し込みできます。

1ヶ月前から5日間は窓口受付のみで、6日目よりインターネットで仮予約ができます。利用日の3日前までに同センターで直接、本予約の手続きをしてください。



『笑顔あふれるコミセンカフェ』の創設にむけて

コミュニティカフェ部会 部会長 小野江達人
年末の12月21日に第3回目、年明けの1月11日には第4回目となるコミュニティカフェ部会を開催し、4月1日の松浪コミセンのオープンに向け、しっかりと土台となる理念と屋台骨となる柱を部員の共通認識として時間をかけじっくりと議論してきました。毎回20名を超える部員の皆さんのボランティアによるディスカッションへの参加に感謝の気持ちが尽きません。

現時点では、造り上げていかななくてはならない様々な決断事を、これから2ヶ月間しかない中で、メニュー担当、衛生担当、運営担当等のグループに別れ作業を進めています。

《地域みんなの居場所》《人との交流・ふれあい》《体にやさしいメニュー》という思いが、どういうかたちで具現化するか、楽しみにしてください。

コミュニティカフェ★寄付募集★

コミュニティカフェでは、コーヒーや紅茶のカップ、お皿の食器類(新品限定)の寄付を募集しています。使用品ではなく、新品を寄付いただけるとありがたいです。よろしくお願いたします。
寄付を申し込まれる方は、事務局(市民自治推進課)までお問い合わせください。

お問い合わせ先:0467-82-1111(代表)



松浪地区まちぢから協議会主催の防災訓練が、晴天に恵まれましたが肌寒い陽気の中、皆さん元気に始まりました。地震発生8時30分、南関東地震が発生、マグニチュード7.9クラス、最大震度7、最大津波27分後5.1m到達と想定しました。

実施場所は松浪中学校、松浪小学校、緑が浜小学校、汐見台小学校、松浪地区14自治会

訓練内容は《足元防災訓練》《地区共通訓練》として、

- ①各自治会が独自の防災訓練を企画、実施。
「安否確認」を実施。
- ②避難所開設訓練「茅ヶ崎市避難所運営マニュアル」初動期STEP1から展開期STEP1まで。
- ③トランシーバーを使用して、情報収集・伝達訓練を行う。
- ④市防災対策課より非常食の提供があり、ロケットストーブ（薪ストーブ）での「給食訓練」を行う。
- ⑤松浪小学校に「まちぢから協議会本部」を置き、拠点避難所と情報収集を行う。

以上を課題として地区防災訓練が行われました。

松浪小学校拠点避難所には、7自治会4,078世帯を対象に、開設要員42名が避難参加者279名を迎え入れて避難所開設訓練を行いました。「AED&心肺蘇生」「イザカエルキャラバン」「講話」防災対策課平山職員の『延焼火災について』約220名がお話を聞きました。また、《安否確認》も行い安否確認率が高い結果に成っています。尚、美住町自治会は独自訓練を企画、102名の自治会員参加のもと、「災害時要援護者、訪問による安否確認」「井戸水汲み上げ訓練(発電機使用)とバケツリレー」「簡易トイレ組立」「本部立ち上げ」訓練を実施しました。

松浪中学校拠点避難所には、3自治会1,755世帯を対象に、開設要員24名が避難参加者77名(松浪2丁目より災害時要援護者2名、支援者3名を含む)を迎え入れて、避難所開設訓練を行いました。避難参加者と協力して「仮設トイレ組立」「ロケットストーブによる給食訓練」を行い、興味を持たれ共感を得られました。

浜竹4丁目自治会は独自訓練を企画、84組の内、74組の《安否確認》を実施しました。また、松浪2丁目自治会は独自訓練を企画、災害時要援護者・声掛け希望高齢者44名の内、39名の《安否確認》を行う。「津波一時退避訓練」は松浪中学校3階教室へ60名(小、中学生含む)が退避。「シェイクアウト」「三角巾・止血」「救出・搬送」訓練も実施しました。

緑が浜小学校拠点避難所には、3自治会1,127世帯を対象に、開設要員19名が避難参加者40名を迎え入れて、避難所開設訓練を行いました。避難参加者と協力して二種類の「仮設トイレ組立」「ロケットストーブによる給食訓練」を行いました。緑が浜小学校校庭に在る「100t水槽のポンプ組立て・取水訓練」を行いました。尚、浜須賀地区の4自治会から代表者の皆様が見学に来られました。ありがとうございました。

汐見台小学校拠点避難所には、2自治会706世帯を対象に、開設要員33名が避難参加者77名を迎え入れて、避難所開設訓練を行いました。避難参加者と協力して「給水タンク組立」受水槽タンクから給水袋に水を入れ組立てた給水タンクへ給水。「えぼし麻呂消火器(お酢)」による、天ぷら油の火を消火。「発電機」を作動して、パルーン投光器点灯。「屋上太陽光発電機」を作動して点灯を行いました。

開設要員の皆さんは、経験者の方が初めての方をサポートして真剣に、避難所開設をして頂きました。

《安否確認》訓練は各自治会が積極的に取り組んでいただき、災害時要援護者・高齢者への声掛けに広がっています。MCA無線機は拠点避難所と市災害対策本部(市役所)との情報連絡の無線機ですが、電波障害で屋内外に移動が必要でした。「まちぢから協議会本部」情報収集活動も年々良くなっています。しかし、トランシーバー使用も自治会内で更なる普段の練習が必要です。

ロケットストーブ(薪ストーブ)はLPガスが使えない事を想定して、薪を使っでの《給食訓練》を行いました。

普段、使わない薪ストーブに皆さん戸惑い、8ℓやかんのお湯沸かしに貴重な経験をいたしました。

防災対策部会 松井教

「いのちを守る」

汐見台小学校 校長 野上 美津子

子どもたちが元気に家を出て登校し、学校で充実した生活と学習に取り組み、元気に下校して家に帰ることは、当たり前のようなようですが、実は、最も大切なことだと考えています。学校は、子どもたちの「いのち」を守り、安全・安心な生活を確保してこそ、学習が成り立ち、質の高い学びを実現することができます。

子どもたちの「いのち」を守るために、教職員は事故等に対する危機意識をもって行動するとともに、子どもたちが自分の身を自分で守ることができるように、学級指導や避難訓練等において、「考えて行動する力」を培っています。ご家庭におかれましても、毎日、お子様に声をかけていらっしゃると思います。また、地域の皆様にも日々見守っていただいております。改めて感謝申し上げます。

さて、汐見台小学校では、「いのち」を守る活動として、3年生が、市「オリジナル自転車止まれステッカー事業」に取り組みました。「もっと知りたいみんなのまち」というテーマで、自分たちの住む汐見台の地域に向いて地域の方々からお話を聞き、もっと住みよい町にするためには何ができるかを考えました。危険な場所はどこかを調べ、クラスみんなで協力して制作した「自転車止まれステッカー」を、保護者や地域、市役所の皆様と一緒に、道路に貼る活動を行いました。子どもたちは、地域の皆様と一緒に活動することによって、「安全なまち」にしたいという思いを強く抱きました。

「汐見台小学校オリジナル自転車止まれステッカー」が、子どもたちだけでなく、大人の方々の交通事故防止に役立つこと、そ

して、「笑顔あふれる安全・安心な町」になることを強く願っています。

児童の感想

3年1組

・地域の大人の人たちに、ステッカーがはってある場所を教えたいです。そして一人ひとりがルールをわかって、そのルールを守っている町にしたいです。
わたなべ かよ
(常盤町地区 渡辺 夏葉)

・これからは、交通ルールを守ることを広めていきたいです。ぼくの夢は、自転車事故のないとても平和な町にすることです。
いまい もとほる
(浜竹地区 今井 元晴)

3年2組

・私は、新しく作ったステッカーを見た地域の方が、私たち3年生がこめたステッカーへの思いを感じて、止まって安全におうだんしてほしいです。
きたこう ちえ
(汐見台地区 北郷 知慧)

・自転車だけでなく、車の事故とかも減らしたいなと思います。この町だけでなく、いろんな町も事故が少なくなるといいと思います。
いとう そなた
(緑が浜地区 伊藤 颯汰)

